

「海を見ていると心が休まるんです。本当に最高!」と、高橋さん



「休日には犬を連れて、家族で近所の森戸海岸へ。森戸神社の奥の岩場やあじさい公園も高橋さんの好きな海のビューポイント

実例② 砂浜の散策、夏の海水浴……。家族と一緒に「子供」にかえる

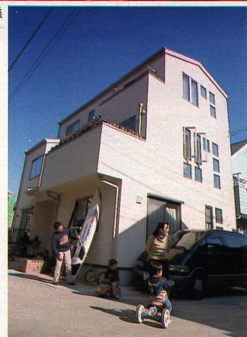


↑真名瀬の海岸を散歩途中、出港前の漁師さんと遭遇



家の敷地は30坪。奥様のアイデアが活かされたデザイン

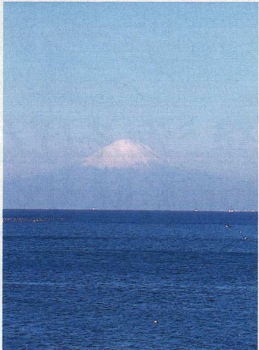
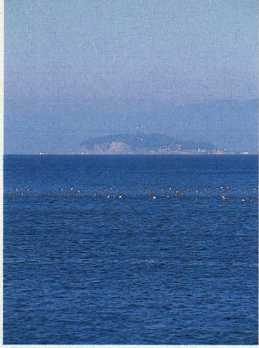
昨年の夏、葉山に転居。高橋さんのお母さんとの2世帯住宅



森戸神社の敷地から見た名島(菜鳥)と通称「裕次郎灯台」



友人夫妻を招いてのホームパーティ。葉山に移ってから、たくさん友人が遊びに来るようになり、週末は大賑わいだとか



↑高橋さんのお気に入りのスポット・森戸神社の岩場からの眺め。江ノ島(上)と富士山(下)。「海の景色でこの2つは必須条件」とのこと

友人の前で、ウクレレの腕前を披露(?)。昨年秋からは、友人のすすめもあって、夫婦揃ってウインドサーフィンをはじめたそう

航空会社勤務の高橋さんが葉山に移り住んだのは、昨年の夏。生まれも育ちも世田谷区用賀だった高橋さんは、元来都内に住むこと以外は考えたこともなかったという。しかし2年前にお父さんが亡くなったのをきっかけに、用賀でお母さんとの2世帯同居を考えるうちに、この際新天地である海のそばに居を構えるのもいいので

は、と思うようになった。都内は確かに通勤には便利ですが、休日に開放感を味わおうとするかわざわざ離れた場所に行かなければなりません。それなら、休日遊びに行くところに住んでしまえば、週末は家の周りで遊べる。そのほうが、リラックスした生活ができるのではと考え、思い切った葉山を選びました。森戸海岸ま



神奈川県三浦郡葉山町在住

高橋健治さん (42歳)

で徒歩2分の場所にあるお宅は、南側に15枚の窓を配置し、全部屋に海の潮風が入るように設計されており、サーモンピンクの外壁が海辺の家らしい温かな雰囲気を出している。家のこだわりはすべて家内の考えで、私はそれに感化された形です。葉山に移ってから、高橋さんの休日の過ごし方も変わったという。以前は、

都内在住時は、魚嫌いだった息子・定治くん。今はすっかり好物に



海まで徒歩2分の「人が集まりたくなる」家

かに出掛けるために休みを取っていましたが、今は家で遊ぶために休みを取りました。休日には、セールとボードをドロリーに載せて海へ歩いて行くのですが、道路の向こうに海が見えたら瞬間、嬉しくて童心にかえってしまいます。海は私が忘れかけていた感覚を思い出させてくれた。家族揃って、「海そば」暮らしを楽しんでいます。

通勤は、森戸海岸バス停(京急バス)～新逗子駅(京急→都営浅草線)～大門(大江戸線)～都庁前(都の航空政策立案に携わっており、現在は都庁に通勤)。通勤時間は、片道約2時間。1カ月の交通費、約¥25,300。「遠くて通うのが大変ですねえ」とよく言われますが、全然苦ではありません。朝、電車から海を眺めたり、帰りにホームで朝の空気を吸うと寝れなくて飛び起きる。



8時10分に都庁に到着。空気を吸うと寝れなくて飛び起きる。



6時15分過ぎに駅に到着。電車に乗り換える



毎朝6時5分発のバスに乗って駅へ向かう

通勤事情
駅に降り立ったときの磯の香りが仕事の疲れを取り除いてくれる